

## NISTがスマートグリッド標準フレームワークのバージョン2を2011年末までに公開する予定を明らかに

2011/05/28 11:08

Phil Keys = シリコンバレー支局



**PR** SimEvents を用いた無線通信システムのマルチレイヤモデリングの事例とは

「スマートグリッド標準フレームワークのバージョン1.0を2010年1月に公開して以降、かなり力を入れてきた。次の段階として、バージョン2.0を2011年末までに公開できる予定である」（米National Institute of Standards and Technology（NIST：国立標準技術研究所）、National Coordinator for Smart Grid InteroperabilityのGeorge Arnold氏）。Arnold氏は、米サンタクララ市で開催したスマートグリッド関連イベント「ConnectivityWeek 2011」で2011年5月25日に行ったパネル会議でこのように述べた。

NISTが手掛けているスマートグリッド標準フレームワークの正式名は「NIST Smart Grid Interoperability Standards Framework」である。現在、同団体は「Release 1.0」を公開している。バージョン2.0である「Release 2.0」のドラフトは、[こちら](#)で公開している。

Arnold氏によると、バージョン2.0を正式に公開できるスケジュールはいくつかの重要な項目の進捗にかかっている。その一つは、家庭内ネットワークを利用するエネルギー管理向け標準「Smart Energy Profile（SEP）」をバージョン1からバージョン2に移行させることである。これまでに市場に導入された「何1000万台」（Arnold氏）におよぶスマートメーターはSEP 1.0対応のZigBeeモジュールを搭載している。SEP 2.0に移行するプロセスにおいて、「こうした従来のスマートメーターのフル機能を利用できるようにすることが重要」とArnold氏は指摘する。SEP 1.0からSEP 2.0への移行プロセスの計画を担当しているのは「Smart Grid Interoperability Panel（SGIP）Priority Action Plan（PAP）18」と呼ぶ団体である（[団体のWebサイト](#)）。



George Arnold氏

[クリックすると拡大した画像が開きます]